

5.4%



今年5月のチェコ国内の失業率。(チェコ労働局による)昨年5月の数値と比較すると1%の減少となる。2009年1月から最も低い水準となる。別の分析方法を取るEurostatの4月のデータでは、チェコ失業率は4.1%でEU圏内で最低水準である。

26 480CZK

今年の第一四半期の平均給与。前年より1119コルナの増加となる。インフレ率を差し引くと実際は3.9%の上昇となる。給与の中央値は22533コルナで前年より6.5%の増加となり、過去8年間で最高となる。企業間では失業率低下により労働力確保の競い合いをしており、給与額を増額することは問題ないとしている。

22%



チェコ国内での男女の所得差。女性の平均所得は男性より6500コルナ低い。EU圏内ではオーストリア、エストニアに次いで3番目に男女間の所得差が大きい。理由として一番目に挙げられるのは、女性は教育や医療など給与の低い職種に就いていることがある。同種の職業でも女性は男性より給与が低い場合も稀なことではない。

フリーデック・ミーステックと不調な地域

モラヴィアシレジア州	7.7%
フリーデック・ミーステック地区	4.8%

北モラヴィアでは、長期にわたって失業率の高い地区と、国内平均を大きく下回る地域が隣接している。以前炭鉱業で支えられていたカルビナーは、現在の失業率は10.7%と国内で最も高い一方、ノヴィチーン(4.3%)やフリーデック・ミーステック(4.8%)は低い。フリーデック地方は3400人を雇用するノヴォヴィツェの現代自動車の影響だけでなく、昨今新たな外資企業の投資が増えていることも影響する。

好調なのはプルゼン州

プルゼン州	3.8%
プラハ	4.2%

プルゼン州の失業率は先月初めて国内最低を記録した。ユニクレジット銀行のエコノミストであるパベル・ショビーシェック氏によると、プルゼンは自然失業率に達したプラハを追い抜く結果となった。自然失業率は郡部より大都市の方が高いというのは既知の事実である。とショビーシェック氏は語る。プルゼン州の経済は機械工業と自動車工業で支えられており、代表的な企業は5000人以上を雇用する路面電車車両メーカーのシュコダ・トランスポーテーション社である。

失業率が高いのはブルノ

南モラヴィア州	6.1%
ブルノ	7.2%

ブランスコ、プジェスラフまたはブルノ近郊は今のところ5%以下を維持しているが、平均値を上げる要因となっているのはホドニーンその他、約19000人が失業し、失業率7.2%を記録するモラヴィアの都市部である。とはいえ、ブルノ市の中で最も多い4000以上の雇用機会がある。雇用の募集は応募と相反する。ブルノ他大都市では学歴や職歴のない市民、職探しをしていない市民が一定数存在しているのが問題である。とユニクレジット銀行のパベル・ショビーシェック氏は語る。ブルノの企業は例えば、IT専門家を探している。

394 789

失業者数は2009年以降最低値。求職者の3人に1人は50歳以上。

チェコの失業率

求職者数と雇用機会(数字は各年5月)



129 054

労働局が提供する雇用機会。2008年以来最高の数値。1つの仕事に3.1人の求職者が集まるという計算になる。